

日 時	令和5年8月31日(木) 9:00~11:30 第11回経営会議
出席者	平原副市長、城副市長、伊地知副市長、大久保副市長、技監、政策局長、総務局長、財政局長、市民局長、中区長
欠席者	温暖化対策統括本部長
議 題	2 新たな横浜市一般廃棄物処理基本計画について【資源循環局】
議 事 要 旨	<p><b>【論点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ G30プラン・3R夢プランに続く新たな一般廃棄物処理基本計画について、横浜市廃棄物減量化・資源化等推進審議会での議論等も踏まえ、素案をとりまとめる。</li> <li>・ 第3回定例会の常任委員会にて素案を報告し、パブリックコメントを実施（10月12日～11月10日）後、第4回定例会で原案を示し、令和6年1月から新計画を開始する。</li> </ul> <p><b>【説明要旨】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsの達成や脱炭素社会の実現などの世界的な課題、人口減少や高齢化など、時代の変化に着実に対応していくため、新たなプランを策定する。</li> <li>・ 計画期間は2023年度から2030年度までとし、市民の皆様が脱炭素の取組についての成果を実感いただき、次の一步を踏み出していただくために、燃やすごみに含まれるプラスチック量を年間で2万トン削減することを目標とする。</li> <li>・ 体系としては、「基本方針1 SDGsの達成や脱炭素社会の実現」、「基本方針2 市民ニーズへの対応と安定処理」を掲げ、基本方針1に対して、「政策1 プラスチック対策」「政策2 食品ロスの削減」「政策3 環境学習・普及啓発の推進」、基本方針2に対して、「政策4 多様な社会ニーズへの対応」「政策5 安定した収集・運搬・処理・処分」「政策6 将来を見据えた施設整備」を実施する。</li> </ul> <p><b>【主な意見等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多額の市費を投入しているごみ処理事業の効果を高めていくためには、ごみの総量縮減について、評価指標やグラフなど具体的な記載が必要である。</li> <li>・ 「プラスチックの分別方法を変える」というだけでは、脱炭素の行動変容につながりにくいので、庁内で連携して、市民に効果的に伝えていくツールを作成していくことが重要になる。</li> <li>・ ふれあい収集は、とても良い事業であるが、高齢化が進んでいく中で、今後の展開を考えていく必要がある。</li> </ul> <p><b>【結論】</b></p> <p><u>主な意見を踏まえ、新たな横浜市一般廃棄物処理基本計画（素案）を策定することで、局案について了承。</u></p>